



安全はすべてに最優先する

日本電通株式会社

はじめに

日本電通グループは「安全はすべてに優先する」「安全は基本動作の繰り返し」「安全は1人ひとりの意識と自覚」を基本理念に、四つの安全確保を基軸とし、2016年下期より継続している人身事故・設備事故・情報セキュリティ事故「0」に向け、日本電通グループ全社員一丸となって各種施策に積極的に取り組んできたところですが、残念ながら2020年4月、継柱上部落下による重大な人身事故が発生し、労働基準監督署よりの改善指示で幕を開けた年度となりました。また、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、3密回避に向けたリモートワークや時差出勤の推進、ZoomやTeamsといったWeb会議の開催ならびに入館時における体温測定や手指消毒の徹底と、過去に類を見ない安全対策が始まった年ともなります。今年にはコロナ禍ということもあり中止した大会等も多くありますが当社の取組みを紹介します。

1. 安全総決起大会

毎年6月、日本電通グループおよび協力会社が一堂に会し、安全意識の高揚と無事故無災害を達成することを目的に、安全総決起大会を開催しています（写真1・2）。大会には外部から講師をお招きして安全講話をお

願いし、協力会社を含めた日本電通グループ総体で安全の相互研鑽を計る場としています。

2. 交通安全講習会

毎年1回、管轄警察署の交通警察官を招聘し、改正された道路交通法令や最近の交通事故の発生状況等の説明を受け、発生実態に応じた具体的な防止対策などについて講義を受け、各種交通事故防止と交通法令の遵守に努めています（写真3）。

3. 緊急時避難訓練および消防訓練

毎年火災が多くなる11月、管轄消防署の協力を得て、事業所内で火災が発生したという想定で避難訓練や火災消火訓練を実施しています。時には人命救助の模擬訓練も実施していただき、自分たちの安全は自分たちで守るという原則のもと、真摯に訓練に取り組んでいます（写真4・5）。

4. 四つの安全

「第三者に対する安全はそれでよいか」「設備に対する安全はそれでよいか」「作業者自身に対する安全はそれでよいか」「情報に対する安全はそれでよいか」、毎月10日の安全の日、毎月21日の0災の日に開催している全体朝礼時に参加者全員で唱和している四つの安全で



写真1 安全総決起大会



写真2 安全唱和



写真3 交通安全講習会



写真4 緊急時避難訓練



写真5 消防訓練



写真6 安全朝礼



す。いずれもお客様や社会から信頼していただき、当社が健全な発展を図っていくために必要不可欠なものです。安全総決起大会や事業所単位での安全品質研修会において、トップメッセージ含め必ず熱く語られるのがこの四つの安全であり、いわば日本電通グループにとって憲法のようなものです（写真6）。

5. VR体感研修

年2回開催している安全品質研修会では外部講師を招いての安全講話や安全アーカイブ視聴等、事故を自分自身の事と感じてもらおうよう工夫していますがやはり座学

が主となります。そこで、実際に普段の現場にいるかのような感覚で実際の作業内容に沿った現実的なシナリオで実際に起こりがちな事故を仮想体験する事ができ、体験者自身の行動による事故を経験する事で、危険感受性を高める目的でVR研修を開催しています（写真7）。

6. フルハーネス特別教育

重篤事故が多発する高所からの墜落・転落災害を防ぐ目的で、厚生労働省は、労働安全衛生法施行令（安衛法）と労働安全衛生規則（安衛則）の一部を改正し、2019年2月1日に施行されました。高さ6.75m以上の高所（建



写真7 VR体感研修



写真8 フルハーネス特別教育



写真9 安全パトロール



設業では5 m以上で推奨)では、2022年1月2日以降使用する墜落制止用器具が「フルハーネス型」に義務化されたことをうけ、また特別教育未修了者は罰則(6カ月以下の懲役または50万円以下の罰金)が課せられる事もあるので高所作業全従事者を対象に、コロナ禍でソーシャルディスタンスを確保できる要員数で事業所ごと複数回実施し完全移行に備えています(写真8)。

7. 安全パトロール

施工現場の安全パトロールを行い、作業の安全と工事

品質の確認作業を実施しています。安全専任者によるパトロールは、指摘型ではなく対話型を軸として現場の作業者と対話を通じて安全について考えるひとときを持つとともに常に安全に作業ができるよう、その一助となることを配慮して実施しています(写真9)。

8. NWカメラ導入に向けた取組み

2020年4月18日に京都市伏見区において、電柱転落・転倒の「重大人身事故」を起こしました。

今回の重大人身事故の直接的な要因としては、「滑り



写真10 作業現場撮影模様



写真11 事務所ででのモニター画面

止め目的の足場釘を抜いたこと」が主原因で長年培ってきた施工スキルの過信でもありました。今後の再発防止策として、以下の取組みを実施しております。

- (1) 会社幹部の徹底的なキャラバンによる安全意識の醸成
- (2) 危険を感じる「VR体験」による危険意識の向上
- (3) 現場とデスク間での2WAYによる施工安全確認の徹底
- (4) 器具工具点検の徹底と点検表の改正による徹底管理と浸透等

上記の再発防止策を継続し、さらなる意識改革を行う上で業務の中で繰り返しチェックを織り込む技術的な仕組み作りも風化防止には必要と考えます。「連続性のある施工現場を見守る」ことが重要と位置づけ、いかにして現場状況を安全品質担当、現場代理人へリアルタイムに伝達するかを考えました。

この、施工現場の見守りは、今までは「現場任せ」「パトロール任せ」だった旧態依然のやり方で「信頼関係」で成り立っていた部分もありました。しかし、昨今の発展著しいIoT技術により、施工現場（遠隔場所）からの映像をリアルタイム送信ができるNWカメラは市場に数多く出回っており、また多数の企業がAI技術を織り込んだNWカメラも豊富にあり、我々の要求条件を明確にしないと機種が決められないほど沢山のNWカメラが乱立しております。

我々の要求条件としては

- ①現場で手軽に使える
- ②どこからでも映像が送れる
- ③見守る側は沢山の目で見られる

等を前提条件に機種選定を始めました。

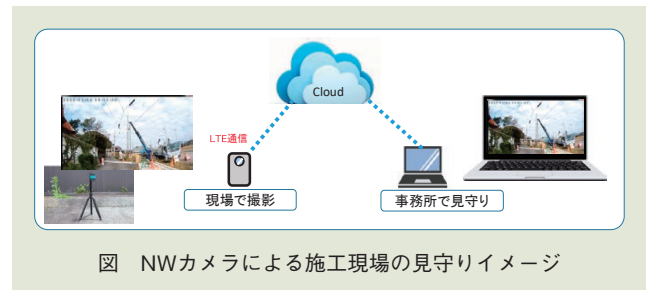


図 NWカメラによる施工現場の見守りイメージ

NWカメラによる「施工現場の見守り」をNTT西日本本仕様へ相談したところ、「NTT西日本で導入検討しているNWカメラの検討をされますか」とご提案をいただき、我々が要求条件としていた、現場で手軽に使える、どこからでも映像が送れる、見守る側も多数で閲覧できる事から、NWカメラの検討を実施いたしました。

NWカメラでの「見守り」は、電柱建柱班に重点を置き検証を開始し、フィールドテストを重ねた状況としては、施工班は常に視られている意識を持ち、近道行動の抑制・防止ができていると感じられます。

また、特に遠隔地でのパトロールについては、遠方まで出向くことなくNWカメラを活用したバーチャルパトロールを展開しており、施工時に必携となる工事指示書、道路使用許可等々の携行チェック、作業内容確認として作業現場全体の安全作業の確認、ピンポイント確認として安全施策、輪留め、架空構造物等の確認等の検証を進めており、年度末を目処に一定の整理を図り、実運用への展開を図りたいと考えております。

将来的には、蓄積した施工現場映像にAI技術を組み入れ、危険箇所の検知、不安全行動の検知等の自動認識機能を搭載した、さらなる安全な見守りができ継続性のある施策展開を行い、二度と重大人身事故を起こさない仕組み作りに取り組んで行くこととします。